

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	3 ボランティア活動・教育（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	3.0.1 ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。	
要素	(KG1) 方針、実施内容	
	(KG2) ボランティア活動実践への対応	
	(KG3) ボランティア活動に関する課題の把握	
	(KG4) ボランティア教育の現状	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. ミッションステートメントを軸としてボランティア理解を整理し、本学独自の活動のあり方の理念的根拠を明確化する。	→ ミッションステートメントにもとづく学院ボランティア理解の提示	C
2. これまで展開されてきた活動の系譜を整理するとともに、ミッションステートメントを受けてどのように継承・発展させるか、その展望を明示する。	→学院ボランティア活動の系譜理解と、その継承・発展のためのマテリアル作成、配布状況	D
3. ボランティア活動を学生などによる自主的活動という位置づけから、積極的に大学の正課教育活動としてとらえ直し、Service Learningとしての内実を求める。	→正課カリキュラム上でのボランティア関連科目の設置、受講者数	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

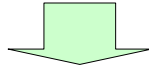
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目3.0.1	<p>(現状説明) 本学におけるボランティア活動は、主に次の4つの形態で実施されている。1) 教職員・学生が協力して活動するもの(ヒューマンサービスセンター)、2) UNITEsボランティア派遣、3) 学生団体として活動しているもの、4) 大学の業務に学生が支援者として協力するもの。ヒューマンサービスセンターは、教職員・学生が協力して、啓発活動を行うほか、ボランティアコーディネート機能をもっている。また佐用町での復興支援(のべ44名参加)、西宮市内での学童交流活動(通常活動のべ1536名参加)などの実際のボランティア活動もおこなっている。国連情報ボランティアは、春秋それぞれ2名の学生がキルギス共和国へと派遣された。学生団体としては、現在、登録団体として、上ヶ原ハビタット、Eco-Habitat関西学院(神戸三田)(以上、海外における住宅問題改善支援)など4団体が認められ、また宗教総部として献血実行委員会ほか3団体が活動をしている。教務部キャンパス自立支援課では、障がい学生への修学支援をおこなっているが、ノートテイク・パソコンテイク・点訳・対面朗読等のサービスを提供するために支援者をつのり、講習をうけたのち、実際の支援活動に従事している。現在、支援活動に登録している学生は、学部・大学院をあわせて152名となっている。</p> <p>以上のように、本学ではさまざまに活発なボランティア活動がおこなわれており、またそれぞれの活動が、建学の精神を簡潔にあらわすとされるスクールモットー Mastery for Service に基づいた活動であることを、それぞれの報告等で明らかにしているが、これを大学全体として把握・整理するところまではいたっていない。また、同時に、ボランティア活動についての大学としての理解を明示して、それに基づいてこれらボランティア活動を支援する体制まではとれていない。今後の課題である。</p> <p>正課教育におけるサービスラーニングの対応については、UNITEsに関して「国連ボランティア実習」「国連ボランティア課題研究」が開講されているが、さらに正課教育に取り入れるまでの積極的な取り組みはできていない。</p>
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目3.0.1	
	その他	



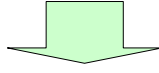
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目3.0.1	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目3.0.1	
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目3.0.1	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○院生にこのような活動を促したり、正課教育にとりいれるのは簡単ではないと思われま。学部との違いを前提にもう少し深く検討してみることが望まれます。

【学内委員】

- 本項目は本学独自の項目であり重要です。
- 種々のボランティア活動・教育がなされていることを評価します。しかし、現状説明で記されている課題や進捗評価での課題等を改善すべき事項に記すことが望まれます。
- 大学で同じ目標を掲げられていますが進捗評価は「C」です。違いがあるのでしょうか。
- 学部の現状説明と同じことが述べられています。研究科におけるボランティア活動については、異なる視点から現状を把握することが期待されます。
- 現状説明において、目標について触れていただければよりわかり易いと思います。
- 2008年度の自己点検・評価においても触れてはいますが、「ボランティア活動の実態を把握するための基礎データ」の作成、実態調査など、大学として把握することが求められます。2008年度の自己点検・評価を参照されることを求めます。
- 改善すべき事項に記述はないのでしょうか。現状説明において課題が掲げられています。
- ボランティア活動・教育がさらに着実に進められることが期待されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	なし
---	----

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

3.0.0.S1	在学生のうち、なんらかのボランティア活動を経験したことがある答した者の比率
3.0.0.S2	在学生のうち、今後、ボランティア活動に参加したいと思う者の比率
3.0.0.S3	主にボランティアを目的とする学生団体(点訳作業など大学主導のものも含む)
3.0.0.S4	ヒューマンサービスセンターのボランティア照会件数
3.0.0.S5	ボランティア関連科目の履修者数

<個別的な指標>
